

2012.09.15

「安倍元総理に支持を！！維新の会とは一線を画させます」

こんにちは。参議院議員の西田昌司です。本日は9月15日(土)です。昨日14日から自民党の総裁選が始まりました。皆様、御承知のように私は安倍晋三総裁候補の推薦人の一人に名を連ねております。是非、このビデオレターを御覧になっている党员の方も安倍総理にご投票頂きたいと思っています。そこで本日は安倍総理の総裁選についてお話しさせていただきます。

安倍総理が「戦後レジームからの脱却」を総理時代に仰っていましたが、私は「戦後体制からの脱却」を掲げて政治家を志し、当時府議会議員となりました。「戦後体制からの脱却」という意味は以下のようなものです。日本の憲法や、様々な法律、価値観は、まさに占領期に作られ、日本本来の価値観とは別のものが使われています。このことが社会全体に大きなゆがみを作り出しており、これを乗り越えなければ、本当の意味で日本の自立はあり得ません。私はこの主張を府会議員時代から唱えており、時を同じくして安倍総理も仰っていました。しかも、総理大臣でそこまで唱えた方は誰もいらっしゃらず、私は、まさに我が意を得たり、の感でした。志を同じくするものとして安倍総理のファンになり、国会議員となってからは行動を共にしてきました。

安倍総理にはもう一度、総理になって戴きたいと思っていました。しかし、今回については、安倍総理は自重し、総理を辞めた理由や、政策の総点検を行

うべきであり、そして、本来は谷垣総裁の下で総選挙をすべきと主張しました。その理由は3年前、自ら泥田に手を入れてドブすくいをするように、野党総裁という大変厳しい仕事を自らお引き受けになり、曲がりなりにも近いうちに解散にまで追い込んだのは谷垣総裁だからです。本来は総裁選がなければ谷垣総裁のもとで総選挙が行われるはずでした。しかし、谷垣総裁は今回立候補をされなかった。このことが安倍総理の決断のポイントになり、最終的に立候補されました。立候補した限りは是が非でも総理を目指すためにも、もう一度、党員の皆様方の支援を頂きたいと思います。

しかし立候補の際のいくつかの懸案事項、ご心配を我々の元にメールなどでいただいておりますので、お話をさせていただきます。

一つは大阪維新の会との関係です。私は維新の会と連携することなど、とんでもないと何度も安倍総理に申し上げております。出馬前に大阪維新の会が秋波を送っていましたし、大阪維新の会と考えが近いのではないかと報道されてきました。私は、このことに対しては明確に一線を引いて否定しておかなければならないと思っております。安倍総理と維新の会との接点があったとすれば、橋下市長ではなく幹事長である松井大阪府知事と会談をしたことです。松井府知事は私と同じように、以前は自民党の府会議員でした。彼も安倍総理の支持者で、安倍総理が掲げている教育改革に大変シンパシーを寄せておられ、大阪の教育改革に励んでいるということです。だから安倍総理と松井府知事が

会談したということなのです。

しかし、大阪維新の会ではなく、日本維新の会として 300 議席目指して選挙を行うのですから、維新の会と連携するような話というのはあり得ないのです。現時点での維新の会との連携は安倍総理自身も明確に否定をされております。ただ、安倍総理が政権与党を目指して選挙を戦うのですが、自民党自身が過半数をとれるかは選挙の結果次第です。自民党単独で過半数とれなかったときにどうするのか、維新の会との連携があるかどうかは現時点では言えるようなことではありません。私個人としては、維新の会と自民党は全く相いれないものだと考えております。私が安倍総理のそばにいる間は、絶対に安易な維新の会との連携はさせません。

それから、もう一つは、いわゆる経済政策です。安倍総理は小泉総理の事実上の禅譲のような形で総理を引き受けられました。小泉総理、さらに言えば竹中平蔵氏の構造改革路線が、そのまま安倍政権にもなされていたのではないかとということが問題です。事実、維新の会の松井府知事も「我々は小泉内閣の構造改革路線を継承していく」と仰っているようであります。つまり、効率化、小さな政府を目指しています。まさに、維新の会の顧問に竹中氏が入っていますので、このような話になるのでしょう。先程、私は簡単に安倍総理と維新の会を簡単に連携させないと言いましたが、この小泉改革路線は安倍総理だけではなく、自民党の中からも沢山の疑問符が付けられているのです。

特に、はっきりしたのは、現在のデフレ下では構造改革はあり得ないということです。私はデフレを脱却するためには、先ず政府が公共事業を初め、雇用を直接作りだしていかなければならない、ということを主張しています。これは安倍総理も総裁選の立候補の過程で仰っています。安倍総理は日銀法を改正させ名目 3%程度のインフレ状況を作っていくということを主張されています。私もこのことには賛成ですが、日銀法改正だけではできないのです。たとえ、日銀がいくら金利を下げ、量的緩和を行ったとしても、デフレ下ではお金がまわりません。ですから、政府が直接お金を出す、つまり馬を水辺に連れていくことが出来たとしても、馬（民間部門）が水（お金）を飲むかというのは馬の判断なのです。金融政策のみでは不可能なのです。ですから、私が言っているように、牛（政府部門）を連れてきて水を飲まさなければならぬ。つまり、牛（政府部門などの公共事業）が水を飲む姿を見せることによって、馬も一緒に水を飲むようになるのです。安倍総理もこのような考え方に賛同なさっています。

そして、他の YouTube の番組などでアップロードされているので御覧になって戴きたいのですが、安倍総理が主催する創生日本の会合で竹中氏をお招きして勉強会を行ったことがありました。その時も竹中氏は、先ず現在は民間にお金を出して、仕事を行ってもらうために、日銀法改正だと仰っていました。しかし、私は日銀法改正だけでは、デフレの時にお金は出ませんし、今、政府

が行わなければならないのは公共事業をはじめ、雇用を創り出すことだと主張しました。そうしますと、竹中氏ですら、「その通りで、公共事業をすれば良いのですよ」と仰いました。ですから、安倍総理になられましても、今までの小泉構造改革路線を行うという事にはなりません。これも、私たちがしっかりとガードを固めて、先ずデフレ脱却の為には政府が責任を持って公共事業を行い、安倍総理にもしっかりと認識して頂いております。ですから維新の会や構造改革路線に事実上、進んでいくことはありません。しかし、今まで新聞やマスコミの報道で、安倍総理と維新の会の距離感は近い、といった印象操作がなされています。実際は誤解があり、側近の私も保証します。政策面では安倍内閣の時代に行ってきた構造改革路線と今回安倍総理が主張なさっていることは大きく異なるということをおきたいと思えます。

今回は五人の候補者がいますが、三人の有力候補が接戦している、と言われております。安倍総理が総理経験者であるにも拘らず総裁選に出たからには負けるわけにはいかないのです。今日のビデオレターは党員の皆様方に是非御覧になって頂き、このビデオレターを是非さらに拡散していただきたいと思えます。今日も御覧になって頂きありがとうございます。